

アマダイ通信NO. 55

(Tile fish network letter)

06年夏椿咲く

知人・友人各位

原油価格高騰につれ、ガソリン代替のバイオ燃料としてアルコールが注目されている。ブラジルの大豆や砂糖黍、アメリカのトウモロコシ、東南アジアのパーム椰子と砂糖黍。砂糖や大豆、トウモロコシの価格も上がり、食肉や食用油にも波及する。作付けも広がる。石油と違い再生可能、炭酸ガスの排出が抑えられ、化石燃料が温存される。結構なことに思える。

しかし、ブラジルのエタノールはアマゾンの原野を切り開いて作られ、アメリカのトウモロコシは地下の化石水枯渇と大平原の砂漠化を帰結する。パーム椰子畑はオランウータンや手長猿など、貴重な野生動物のネグラと食物を奪う。地球の寿命が尽きるまで40数億年、人類はこの矛盾を解決し、物理的に存在可能な期間まで、地球上で生活していくことが可能なのだろうか？

◎「同和工業と秋田におけるその事業、ビジネス機会」…第12回能代山本フォーラム21

今回は、同和鉱業㈱を業績が市況に左右される非鉄金属の会社から、高収益の最先端環境企業へと変身させた、吉川廣和同和鉱業社長に講師をお願いしました。吉川社長は群馬県立高崎高校から、昭和37年に東京大学教養学部文科Ⅲ類に入学。昭和41年教育学部教育学科を卒業して、同和鉱業に入社。平成14年4月社長就任、現在に至っています。

日本有数の非鉄金属会社、同和鉱業は、現在も秋田の小坂で金・銀・銅などの精錬を行っていますが、その技術を転用・発展させて化学物質に汚染された土壌を処理したり、使用済み携帯電話・パソコン等から銅や金・銀などの貴金属を再生させる、世界有数の最先端環境企業でもあります。百億円を投じ小坂に建設中の新炉が完成すると、世界中から「都市鉱石」としての廃携帯や廃パソコン等のリサイクル原料が集まります。この機会に、同和鉱業が小坂に近く輸送コストの安い能代港を利用することは、故郷にとっても、運輸や建設で雇用やビジネス機会が増えるだけでなく、前工程を能代でするなど、様々な関連ビジネスが派生し、一大環境産業都市として発展する可能性が開けます。能代産廃のトラウマの残る我が故郷ではありますが、船川や青森港での実績に照らせば、その心配は稀有だと思います。東大三鷹寮の先輩である吉川社長に、同和鉱業と能代山本の夢を語っていただきます。奮ってご参加下さい。

先日、秋葉原UDXビルの真新しいオフィスに吉川先輩を訪ねた際、小坂の新炉と同種のものは世界で三つしかなく、世界的な競争になる。コスト競争力が鍵なので、地の利のある能代港を是非使いたい。09年2月に本稼働予定で、その時には世界中から、廃携帯電話、廃パソコン等の産廃＝有価物を集める。来年5月から遅くとも翌春にかけて結論を出さなければいけない。能代の受け入れ体制ができなければ青森に追加投資することになるとのこと。その時は能代が環境産業都市として発展するチャンスは消えることとなります。今回の講演が一步前進の機会となれば何よりです。

日 時 7月3日(月曜)午後2時半開場、3時開会、5時より懇親会
場 所 能代キャッスルホテル 平安閣
会 費 講演会無料 懇親会5千円
申込・連絡先 飯坂 誠悦(Tel/fax0185-54-8953)



◎抗がん剤から解放され、再びアマポーラ咲く国へ

三年前の三月に大腸がんを手術、抗がん剤点滴の管を引きずりながらブッシュのイラク爆撃をテレビで見て、四月半ばに退院。入院前から五月の連休は娘とスペインツアーを申し込んでいたが、五月からは毎月一回一週間入院して、抗がん剤の集中点滴治療を五ヶ月間受けることになる。恐る恐る？三楽病院の主治医の阿川先生にツアー参加の可否を問うと、意外にも即座にOKが出る。入院はスペインから帰ってからでいい、手術したからと言って旅行に支障はないという。一抹の不安を抱きながら、機中の人となる。

五月のスペインは暖かく、マドリッドからバスで南下、地中海沿いを走り、バルセロナから再び機内に。沿道のオリーブ畑に、緑濃い小麦にまじり、真っ赤な芥子の花、アマポーラが目に焼きつく。この五月の連休、又、娘と一緒にギリシャに遊ぶ。パルテノンやデルフィの神殿、ミケーネの丘にも、黄色のミモザや白いコデマリに混じり、赤いアマポーラが鮮やかだ。生きて再びこの花にギリシャの地で会えるとは！ギリシャも地中海性気候、イタリアを挟んでバルカン半島とスペインは地続きで不思議ではない。が、同じ時期、かつてローマからポンペイへ走った時の記憶にはない。大病後のスペインであり、ギリシャだから、真紅に燃える太陽のように、目に焼きつくのだろうか？

五月の連休のナポリもグラナダも暑かった。アテネも似たようなものだろう。長袖を少ししか持ち合わせなかったアマダイには、雨のギリシャは肌寒い。ロシアほど寒くはないが、ウオッカに似て透明で、アルコール濃度の高い地酒ウゾーを、水代わりのビールと交互に飲みながら、ギリシャ料理を楽しむ。が、ロシア料理と飲むウオッカ、中華料理と一緒にする白酒ほどの味わいが無い。オリーブ油を多用するギリシャ料理に慣れないせいだろうか？

その時、ホテルのレストランの向かいの席で「干場さん！生きてたんですか？」と、女性の声。「うんっ？」と一瞬そちらを見ると、「中野です！去年の夏バルト三国ツアーでトイレを探してもらった！」と畳み掛ける。そう言えばタリンでだろうか、日本なら公衆トイレがみつからなくても、コンビニで借りられるし、パチンコ屋でも大丈夫、ヨーロッパでは何時もトイレで苦労する。パチンコ屋を輸出すればいい、と思ったりしながら、一緒にトイレを探したことを思い出す。隣の席の旦那さんが懐しい顔でニコニコしている。「ホームページ見てもアマダイ通信が47号から更新されてないので、亡くなったと思っていたんです」と、再び奥さんの弾んだ声がする。

◎ギリシャは何で食べる？先祖の遺産を食べる？

アテネの街中の交差点 スクイーズ片手に車の窓拭きをさせると手を差し出したり、ビニールに入ったバナナを売る、色浅黒く目の大きなインド人やパキスタン人？がいる。不法移民だというが、トルコにも、エジプトにもいた、アメリカ人には「十ドル！十ドル！」、日本人と見れば「千円！千円！」と叫ぶ強引な物売りはいない。

ギリシャの一人当たり国民所得は英、独、仏の半分で、車の税金も高く、普通車で4百万円ほどと日本の倍だ。車を手に入れるのに苦労するというが、昨年訪れた隣のルーマニア、ブルガリアに比べ車も新しく、家もきれいだ。地中海スペインに町並みの美しさは劣るが、島々を行き交うクルーザーや客船の白が、空の青、海の藍に映えて美しい。アテネのピレウス港には白亜の大型客船が折り重なるように停泊している。憧れのエーゲ海で泳げればと今回も海パンを持参した。海水浴場や磯に降りられる島の港にも寄港し、多少の時間もあつたが、梅雨寒の戸田湾で友と泳いだ、学生時代の若さは既くない。

その昔、ギリシャは近隣諸国にオリーブ油、ワイン、金銀細工、陶器、奴隷を輸出、アジア、エジプト、黒海方面から小麦を輸入、エーゲ海、東地中海の覇権を握り、交易で稼ぎ、アテネやスパルタに代表される民主共和政の市民国家が繁栄した。戦争で獲得した奴隷の労働に支えられた、一部市民の自由であり、民主であったとはいえ、ヨーロッパ文化の基をなした、ギリシャ文明の花を咲かせた。だが、今のギリシャは何で食べるのだろうか？オリーブ油もスペインやイタリア産が、ワインもフランスやイタリア、ドイツが日本では有名だ。海運は世界有数らしく、出稼ぎも多いようだが、やはり観光が主産業？ということは先祖の遺産を食べているのか？一人当たり国内総生産は独・仏の半分でも、イスラム＝トルコに先立ってEU加盟を認められたのはヨーロッパ文明の祖、ギリシャに敬意を払ったということだ？

◎アムス観光、EUって、こういうことなんだ！

往路の JAL も復路のオランダ航空もアムステルダム経由。帰り、アムステルダムで7時間ほど乗り継ぎ時間があったので、オランダに入国して思いがけなくアムステルダム観光をすることに。ギリシャから入国したのに、ザックからパソコンを取り出し、時計、鍵、小銭入れなど“金目の物”を上着のポケットに詰め込んで、その上着を脱いでバスケットに入れ、金属探知機がピーピー鳴って、ズボンのベルトも抜いて、という手荷物検査がない。列に並びパスポートを提示しての入国審査もない。EUってこういうことなんだ！

ギリシャで使い残したユーロでチケットを買い、ゆったりしたシートの電車で20分ほどで、都心へ。1時間ほど船で運河を巡る。古い街並みに新緑が映えて美しい。仲のいい老夫婦のように、寄り添いながら傾いて立っている建物が、埋め立ててできたこの町の由来を語る。再びセントラル駅から、今度はトラム(路面電車)で美術館へ。ゴッホ美術館は長蛇の列。諦めて皆がミュージアムショップでゴッホを鑑賞？している間にトイレを探すが、見つからない。地下に迷い込むと、巨大な空間。大型バスが何十台も並んでいる。バスターミナルか？車庫か？いずれにしろトイレがある筈だ。ようやく人間を見つけて Where is toilet ? 指差された方を見ると明るい空間が広がっている。助かった！だが入れない！ゲートはバーで閉じられている。チップトイレだ。ポケットを探し1ユーロ硬貨と50セント硬貨を投げ入れる。

きれいなトイレだ。気持ちよく用を足す。アテネの空港のトイレのドアが壊れていたのに較べると格段の違いだ。民度の差がこの辺に表れる。ギリシャ文明が燦然と花開いていた頃、紀元前十世紀前後、オランダの湿地はバルバロイ(野蛮人)がまばらに住む未開の地、文明の、世界の外だった。だが、イノベーションが世界を変える。陸路とガレー船の交易時代、ギリシャが地中海の覇者ローマにとって代われ、ローマが東方の富を押さえたオスマントルコに代われ、十五世紀、大航海時代はスペイン・ポルトガル、そしてオランダの時代へ。重商主義の時代、大型帆船を操って海上交通の覇権を握り、交易を支配した者が時代の覇者となり、栄え、傍らで技術革新に乗り、力を蓄えた者が、次の覇者となった。産業資本主義の時代は産業革命で先行したイギリスが覇権を握り、その資本主義の中から産まれた社会主義の勃興と冷戦の時代を経て、アメリカ極主義の現在へ。そして今、ギリシャから北欧までヨーロッパは一つとなった。EUは、ユーロは、アテネとアムステルダムのこの格差をなくすのか？ 広げるのか？ アメリカから覇権を奪うのか？ いずれ国境はなくなり、貧困とそれがもたらす戦争もなくすることができるのか？ アムステルダムで出国審査と手荷物検査をし、日本へ向かう。アテネ空港では手荷物検査だけ。EU内の最後の経由地で一度だけ、出国審査するだけなのだ。

◎尻から鮮血！大腸がん再発？

ギリシャツアーが日を重ね、佳境に入った頃、トイレに入って用を足し、お尻の辺りに染みるような痛みを感じて、ペーパーを見ると鮮血で真っ赤に染まっている。大腸がん再発か？と、一瞬、頭が白くなる。大腸に癌ができると出血するので、検便でわかる。又、便が細くなったり、色も黒っぽくなり、下痢と便秘を繰り返すなど、お尻の調子は要注意だ。アマダイの場合は色艶、太さ、固さ共に立派なものだった。見た目には何ともなかったのに、小平市の消化器癌検診で便潜血検査陽性ということから、大腸癌がみつきり、危うく一命を取り止めた。それがこんな酷い出血！

だが、隔月に1回は血液検査し、四ヶ月に1回はCTを撮るなど精密検査しているのに、そう悪くなる筈ないじゃないか？自分はこのようにピンピンしている。悪いのはお尻だけだ！多分、ウオシュレットのせいでヤワになった肛門が、環境が変わって切れたのだろう。家の二箇所のトイレも洗浄便座つき、事務所もウオシュレットつきだ。顧問先のオフィスビルでも結構ついている。レストランやホテルもかなりの割合でついている。新聞紙で処理していた時代、ゴワゴワの落とし紙の時代、エンボス加工の柔らかなトイレペーパーの時代、紙は水滴を拭き取るだけになったウオシュレットの時代と、日本のトイレがお尻に優しくなり、痔の病からは大分解放されたが、日本人の過保護なお尻は逆に弱くなっているのだ。今度来る時は霧噴器のような携帯ウオシュレットを持参しなければと結論づけ、旅を続ける。

帰国後の三鷹クラブの講演会の二次会で、三楽病院の河野名誉院長に、お陰様で抗癌剤卒業しましたと挨拶。よくここまで来たね、澤田(群馬県立癌センター院長)君何か言ってた？と先輩。新病院建設中で、先日営業に行った時も、データはデータで、個人にとっては0か百だから、と言ってましたと言うと、言いようがないよと先輩。寮同期の山川胃腸科院長夫妻も同席。大腸癌と診断された時、色々聞いたけど、答えにくかったんだらうな？と聞くと、いやいや！と、にやにや。抗癌剤二年で止めて急に悪くなってなくなった人もいるけど、副作用なかったの？と先輩。全然とアマダイ。副作用が酷くて続けられず亡くなる人もいるよう。ステージⅢbと大分進行していても、「ほとんど治癒する見込みなし」(岩波新書「胃がんと大腸がん」)と本人に正直に答えられず、皆困ったんだらうな。そんなこととはつゆ知らず、体調がいいのを幸い、以前とほとんど変わらない生活をして来たのが、かえって良かったのかも知れない。「もう手遅れです」などとデータ通り言われていたら、アマダイ通信も55号まで続かなかったかも知れない。関係者一同にあらためて感謝いたします。

◎家庭で眠る楽器に羽つけて飛ばそう！・・「国境なき楽団」(庄野真代代表)

☆ 庄野真代様

ご無沙汰しています。先日朝日新聞(5月31日朝刊「フィリピンと私・・施設の子たち楽器で微笑み」)で、庄野さんがフィリピンの子供達に楽器を送る運動をしている記事を見て、小生も何か協力させていただければと、メールしております。

先年、JBIC(海外協力銀行)のフィリピン開発セミナーでネグロス島へ行き、小学校を訪問、貧しいながらも熱心に勉強する子供達のために何かできないかと思いながら、何も出来ずに来ております。小生の個人通信「アマダイ通信」(友人・知人宛に3千部弱郵送)で紹介、楽器や送料(楽器は集まっても送料に苦戦とかしてないですか?)の寄付を呼びかけることができればと、思ったりしています。呼び掛け文とかあればメールしていただけないでしょうか？

☆干場さん、


お察しの通り、楽器の運搬費は悩みの種です。先月はペナン島の障害児の施設に、鼓笛隊の楽器一式を送りましたが、日本郵船の社会貢献部にご協力をお願いできたので、なんとかなりました。今月は、ザンビアのエイズ孤児の施設に送るのですが、船便では7ヶ月もかかるというので、寄付を募って航空便で送ろうと思っています。ネグロスの子どもたちにも贈ってあげたいですね。楽器というモノを送るというよりも、寄付者からの応援の心を届けるというのが、このプロジェクトの誇れるところですよ。贈り手が幸せな気持ちになりますから・・・。

＝家庭に眠っている楽器はありませんか？＝

NPO 法人国境なき楽団では、音楽ボランティアのひとつとして、世界の子どもたちに楽器をおくる活動をしています。生活環境の厳しいところで暮らす子どもたちに日本で不要になった楽器を贈り、音を奏でることで心の調和が育まれることを願っています。2006年は、2月にフィリピンの孤児院とストリートチルドレン保護施設へ、5月にマレーシアの障害児施設に届け、7月にはザンビアのエイズ孤児施設に、秋にインドネシアの障害者の施設に送ります。又、10月20～23日、マニラに楽器を届けに行くツアーを催行します。マニラではチャリティコンサートも実施します。一般の参加者も募集しています。3泊4日で料金は82800円です。

笛やハーモニカ・ピアノなどの小さな楽器から、ギターや太鼓などの大きな楽器まで、寄付して下さる方はご一報下さい。メンテナンスや送料などにも費用がかかる活動ですが、楽器を待っているたくさんの方々の笑顔に応えるため、資金面でものご協力もお願いできれば幸いです。ホームページで活動の様子をご覧ください。温かいご支援、お待ちしております。

歌手・国境なき楽団代表 庄野真代

★「翔んでイスタンブール」の大ヒットを飛ばした庄野さんと、音痴のアマダイが、何故かメル友になりました。加藤登紀子さんと、小島敏郎君（環境省地球環境審議官、の次の三鷹寮委員長）に感謝しなければなりません。登紀子さんのロシアレストランでのパーティで小島君に紹介していただき、音楽と生活を貫く、「環境と貧困」に対する想いに共感するもの、大です。一緒に応援して、心豊かになっていただければと思います。

☆ご入金先：郵便振替 00110-7-279888 国境なき楽団 連絡先：〒150-0044 東京都渋谷区円山町 5-4 フィールA渋谷802 特定非営利活動法人国境なき楽団 TEL: 03-3462-2007 FAX: 03-3462-2003 Email: info@gakudan.or.jp です。

どうぞよろしくお祈りします。庄野真代◆ <http://park16.wakwak.com/~mayo/> ◆

.:*:♪'☆°'・*:.:。♪.:*:♪'☆°'・♪ 国境なき楽団 <http://www.gakudan.or.jp>

◎翔んでケニア！・・・一緒に植樹に行きませんか？

「地球に暮らす一人ひとりが行動をとってこそ、時代は変わるのです。」

～ワンガリ・マータイ(ケニア環境省副大臣・ノーベル平和賞受賞)～

三鷹の寮で一年先輩で大蔵省(現財務省)OBの宮村智さんが、NTT常務からケニア大使に転出、在任中に一度ケニアにと思っていたところ、イオン環境財団からケニア植樹ツアーの案内が届く。イオンの海外植樹ツアーには中国・万里の長城、カンボジャ・アンコールワット、マレーシア・ボルネオと何度か参加、普通のパッケージツアーでは行けないような所に足を踏み入れることができ、現地の人々の生の声を聞き、交流できる。植える木の数だけだったら、お金を寄付した方が効率的だが、フェース・ト・フェースでお互い触れ合えるのは何よりだ。



ケニアに飛ぼう！と心に決め、ナイロビの宮村大使にメールした積りが、東京から返事。休暇中で、明後日、6月2日のS40年・41年入寮合同同期会に出席するという。大使と一緒にケニアで植樹を！同期の皆にも呼びかけよう！イオン環境財団の神尾事務局長にパンフレット60部宅配してもらおう。さっそく同期の新生銀行系ファンドの飯田徳松君や、弁護士の国生肇君など、3、4名が手を上げる。植樹だけでなく、キリマンジャロの麓の「アンボセリ国立公園」でサファリなどの観光もする。フラミンゴで有名で、ペリカンなどを含め鳥の種類が豊富なバードウォッチのメッカ、国立公園ナクル湖にも行く。バードウォッチが趣味の大川政策投資銀行副総裁も興味ありのよう。7月にナイロビで神尾さんが宮村大使を訪問することになる。

ナイロビ郊外の、島根県出身で元日本大使館職員の菊本照子さん(60)が作った孤児院「マトマイニ(スワヒリ語で『希望』)・ホーム」の記事(4月20日朝日新聞朝刊)を読んだ。19年間で85人の孤児が社会に巣立ち、その子達も運営に参加しているという。見学できないか？神尾さんに提案する。「ナイロビには一日もいたくないんです」と彼女。「どうして？」暢気に返す。「危ないのに、夜平気で出かける男の人がいるんです！」きつい声が返る。「自分の金で外国にまで木を植えるに行く人が、そんなことするの？」、「いるんですよ！」、「そうですね！恋はするもので、お金で買うものじゃないよね！」ということで、ネオン瞬く巷を徘徊したい御仁は全く歓迎されないということを、念のために。残念だが、「マトマイニ・ホーム」は又の機会にしよう！

☆ケニア植樹参加者募集！

イオン環境財団設立15周年記念式典で植樹にかける想い、地球への感謝の気持ちを語り、深い感銘を与えたケニア環境省副大臣ワンガリ・マータイさんへのお礼の意味をこめ、彼女の進めるグリーンベルト運動の一助となるべく、ボランティアを募りケニアでの植樹を実施します。

マータイさんの少女時代はどこでも森があり薪が豊富にあったにもかかわらず、きれいな飲み水をくれた森の木が伐採されてしまいました。途上国の女性が切望しているのは、子供の頃と劇的に変わってしまった環境を元に戻したいということです。応援を御願います！

日程：2006年11月18日(土)～25日(土) 発着：羽田空港/関西空港
申込・問合せ先 (財)イオン環境財団 〒261-8515 千葉県美浜区中瀬 1丁目 5番地1
Tel:043-212-6022 Fax:043-212-6815 e-mail:ef@aeon.info <http://www.aeon.info/ef>

◎「有意義なメーデー」・・・黄土高原だより(NO.363)

高見 邦雄(緑の地球ネットワーク事務局長)

北京の李建華さんと小学校から高校までの同級生13人が、メーデー休暇の5月1日から3日間、大同を訪れ、私たちのプロジェクトで、木を植えてくれました。日本や長春からの参加者もあり、彼らの大同滞在は有意義だったようです。私たちの会報に数本の原稿が寄せられました。皆さん中国人ですが、日本語で書いてくれました。まずは、「有意義なメーデー」と題された一文。【ディスプレイでみやすいように、改行を勝手に高見が入れました】

このたび、有意義なメーデー休日を過ごした。かつて長春外国語学校時代のクラスメートと一緒に山西省大同県巨楽郷「カササギの森」へ植林にいった。五十も過ぎて、かつてのクラスメートで植林にいくなんて、しゃれたことをするなと思われるかも知れない。しかし、これはしゃれたではない。私たちはますますひどくなる「黄砂」を体験して、微力とは知りながら、一中国人として行動に出たのだ。それぞれポケットマネーを拠出し、GWの休暇を利用して、黄砂来襲三ルートの一つ、山西省に向かった。

黄色い大地を相手にショベルで奮闘し、作業を半日も続けると、汗が額から、顔から、体中から滴り、まったく水っ気のない大地に染みいる。それでも二百数十本の松の苗木が大地に立ったという成果を見ると、顔が汗と砂ぼこりでまみれていながらも、心で少しは環境保全の力添えになったと満足感を覚えている。クラスメートたちが幼い頃の思い出に話が弾み、兄弟姉妹のような連帯感もいっそう強くなった。地元の農民は一同に「老高」という名前を口にする。高見邦雄さんのことを指している。「老高」は 1992 年からここで植林事業をしてきた。彼と彼のお伴の日本人が最初にこの山村に来た頃、小石を投げつけられたこともあったそうだ。旧日本軍が中国を侵略した時、山西省の人々も大きな損害を受けたからだ。それでも高見さんは農民と真心の交流を続け、地元から「老高」という全然わだかまりのない、親しい呼び名を付けられるようになったのだ。

植林緑化事業は日本の多くの機構、団体から資金、人的援助、協力を頂き、段々大きく実を結ぶようになった。これを通じて、中日両国人民の間に心の絆が結ばれ、橋が架けられつつある気がする。北京へ帰る車の外を眺めると、草木のない黄色い大地が延々と伸びている。

これからも、より多くの「老高」と、私たちのような「老青年」がこの事業に参加し、努力を続けていかなければならない。【引用ここまで】

これを書いたのは、東京の中国大使館でこの春まで公使をつとめていた程永華さんです。マレーシア大使として新任地に赴く前の短い休暇中に、大同にきてくれたのです。たしか、1月だと思います、たまたま、東京で顔をあわせた時、「李建華に誘われて、大同に行くよ」といってたんですけど、本気だと思ってませんでした。嬉しいですね。この事業を始めた時、理解してもらうのは難しかったんです。「わずかな日本人が、あの広大な中国で一体何ができる！」といわれました。その通り。黄色い大地の広大さを目にして、言い出しっぺの私もゾーッとしました。

しかもこの仕事は、マイナスからのスタートでした。彼の文をみてどこの村で話をきいたか、すぐわかりました。私の後を数人の男の子がつけて歩き、「ダーダオ・リーベン、ダーダオ・リーベン……」と歌いながら、小石を拾って投げるマネしてたというんです。「打倒日本、打倒日本」です。全く気づいてなかったんですが、知ってたらくじけていたかもしれません。何ができるんだといわれ、口はばったいようですけど、「呼び水の作用を果たす」と、答えたんです。それが少しずつ現実になり、北京あたりの人達が、砂漠化や水不足の問題に関心をもち、自分達でも動いてくれるようになり、私たちがやってきたことを、こうやって評価して下さる。ありがたいことです。


★ 税制上の優遇措置をうける認定 NPO法人・認定特定非営利活動法人

緑の地球ネットワーク(GEN) 〒552-0012 大阪市港区市岡 1-4-24住宅情報ビル5F

TEL.06-6576-6181 FAX.06-6576-6182

E-mail gentree@s4.dion.ne.jp URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

◎GEN15周年、9. 30加藤登紀子ランチタイムコンサート

黄砂の吹き出し口、中国、山西省、大同市での「緑の地球ネットワーク」の活動も15年。「愚公山を移す」かの如く、内外で広がりを見せています。これを記念し、東京は表参道の、テアトロスガリー青山 (Tel.03-3475-6648) で、加藤登紀子さんのご協力をいただき、コンサートを開催致します。9月30日(土)12時開場、12時半開会、ロシア料理を味わいながら、オトキさんの語りと歌を楽しんでいただきます。会費は1万円です。どなたでも参加できます。申込み・問合わせは上記「緑の地球ネットワーク」、又は  まで！

◎「海外日本企業に生きる人材」・・・三鷹クラブ第 67 回定例懇談会

7月には、法政大学大学院ビジネススクールの小池和男教授が講師です。労働経済を専門とされ、とくに企業内の職業訓練、人材育成といった分野については、第一人者とも言うべき先生には、一度御登壇いただきたいと考えておりましたが、今回ようやく実現しました。

小池先生は新潟高校(新制)卒、昭和 26 年文 I で、入学も入寮も私と同年次ですが、三鷹では全く接点がありませんでした。聞けば、入学当初は下宿で、夏頃三鷹に入寮手続きし、間もなく駒場に潜り込むことが出来、結局三鷹に居た期間は1ヵ月足らずに終わったそうです。秋に入寮した私とはほとんどすれ違いだったわけです。そんな短い在寮でも、東寮(当時は1棟のみ)の殺風景な蚕棚の8人部屋の印象は強く残り、また隣室(自習室は一緒)に寮委員長の鎌倉節さん(元宮内庁長官)が居られたのは覚えておられるそうです。

小池先生とのお付き合いが深くなったのは、私が旧労働省で国際関係を担当していた昭和 50 年代の前半位からです。審議会のような場ばかりでなく、非公式の勉強会などにも頻りに顔を出していただきました。当時抬頭して来た、東南アジアの新興工業国の調査をお願いしたこともありました。そうしている間に、三鷹寮の名簿作りが始まり、26 年度入寮者の中に小池和男の名前を発見し、先生も同時代の仲間であったことを知り、いっそう親近感が増しました。

年号が昭和から平成に変わった頃、日米間で企業内職業訓練につき、政府関係者、学者等の専門家、産業界や労働界の代表者を交えた共同プロジェクトが動き出しました。この問題に悩みを有する米側からの強い要請がきっかけでした。相互の実地調査などの後、2 回にわたりワシントンで大規模なシンポジウムが開催され、平成 5 年の第 2 回会合の際、小池先生と御一緒し、先生の迫力に満ちたプレゼンテーションに驚きました。充実した内容や明快な論旨とともに、流暢とは言えませんが、強く響く英語のスピーチは米側の聴衆を圧倒しました。

小池先生の勢いにも後押しされ、その後米国の産業界では、従業員教育や人材育成の取組みに変化が見られるようになりました。一方、わが国では、いわゆる失われた 10 年の間に、この面でも自信喪失が著しく、人材育成におけるアドバンテージを忘れるような風潮が広がりつつあります。小池先生には対外的ばかりでなく、国内に向けても喝を入れていただきたいと望んでいます。

(平賀俊行記)

日時:平成 18 年 7 月 18 日(火) 18 時 30 分～21 時

場所:学士会館本館 203 号室(千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931)

会費:5000 円(会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み)

申込先:平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎最後に・・・明治18年創業の岩館郵便局、四代目で幕

田舎の特定郵便局長の兄が、小泉郵政改革に嫌気さしたか? 65歳の定年まで数年残して辞め、誰も跡を継がない。「郵便局の革ちゃん」としては一抹の寂しさもあるが、育林や山菜、茸狩などの好きな山仕事にやる気満々だ。今号で3千部印刷の本通信、兄の成績に協力しよう、田舎から切手を取り寄せ、切手別納で郵送して来たが、これを機会に、メールでという方にはメールで送りたいと思います。ご希望の方はメールでご連絡ください。

恒例のアマダイ通信版カモメールですが、55号を記念し、封筒記載の番号、末尾55番の方に、田舎の兄が用意した、故郷名物、イカの一晩干しを贈らせていただきます。 再見!